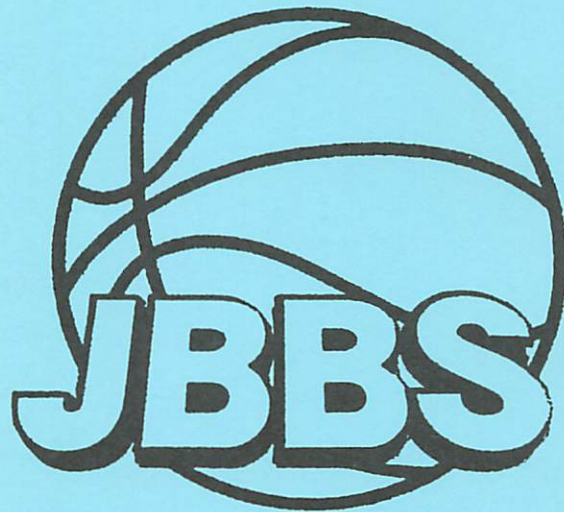


バスケットボールプラザ

Basketball Plaza

No:44



2010年2月

NPO法人 日本バスケットボール振興会



手にとった瞬間、キミは驚くはず。
その翼のような軽さとしなやかに。
1gでも軽くするために、あらゆる素材を
厳選し構造を何度も検証し
そして遂に、軽量でありながら
優れたクッション性と包み込む
ようなフィット感を実現させた。

夢は必ず叶うと信じるための1足。

ウエーブホープネオ

希望という名の翼、新登場。

WAVE HOPE NEO



キミに翼を。

目 次

○ 日本代表東アジア競技大会で男女とも三位	3
○ JOMOウインターカップ2009	6
○ ウインターカップ男子で初優勝	9
明成高校（宮城県）コーチ佐藤久夫氏が語る指導者像	
○ 全日本総合選手権大会結果	15
○ 日本のバスケットボール「定着期」の考察	歴史部会 18
○ 期末に際して	理事長 小澤 正博 23
○ 会員だより	
美しさを求めて	三輪 勝久 25
私のバスケット歴	徳永 寿美 27
ささやかなバスケット歴	鈴木 健雄 29
年末年始の全国大会を観戦して	黒川 敏雄 31
○ 事務局だより	32
○ プラザこぼればなし	33

東アジア競技大会で日本代表男女とも三位

男子は中国・韓国を破る

[編集部]

第5回東アジア競技大会が昨年12月2日から香港で開催され、日本代表は男女とも三位に終わったが、男子は予選ラウンドで韓国に勝利し、決勝トーナメントで中国に快勝した。若手中心の中国チームだったが、東アジア大会で日本男子代表チームが中国に勝ったのは久しぶりのことで、アジアで低迷していた日本にとって一筋の光明を見出した感がある。空席となっていた男子代表チームのヘッドコーチには、日立サンロッカーズの小野氏がこの大会のヘッドコーチに起用された。

女子代表チームも予選リーグで中国と韓国に勝利したが、決勝トーナメントで再度中国と対戦し、1ゴール差で決勝進出を逃した。

大会結果は下記の通りだが、男女ともチャイニーズ・タイペイが二位になっており、東アジアにおいてあなどれない相手となりそう。

【男子日本代表メンバー】

主なスタッフ

役 職	氏 名	所 属
団 長	深津 泰彦	日本協会副会長
ヘッドコーチ	小野 秀二	日立サンロッカーズ
アシスタントコーチ	後藤 正規	日本協会
アシスタントコーチ	金田 詳徳	レラカムイ北海道
マネージャー	七川 竜寛	パナソニックトライアンズ

選 手

No.	選手名	P	身長	体重	年齢	所 属
4	岡田 優介	S G / S F	185	76	25	トヨタ自動車アルパルク
5	菊地 祥平	S G / S F	190	90	25	東芝プレイブサンダース
6	富田 卓弥	C F / C	198	95	23	東芝プレイブサンダース
7	正中 岳城	P G	180	78	25	トヨタ自動車アルパルク
8	酒井 泰滋	S G / S F	190	88	25	日立サンロッカーズ
9	西村 文男	P G	177	70	23	日立サンロッカーズ
10	竹内 公輔	C F / C	205	98	24	アイシンシーホース
11	濱田 卓実	S G / S F	192	75	24	パナソニックトライアンズ
12	広瀬 健太	S G / S F	193	90	24	パナソニックトライアンズ
13	石崎 巧	P G	188	85	25	東芝プレイブサンダース
14	荒尾 岳	C F / C	198	93	22	トヨタ自動車アルパルク
15	竹内 譲次	C F / C	206	98	24	日立サンロッカーズ

[男子成績]

グループA

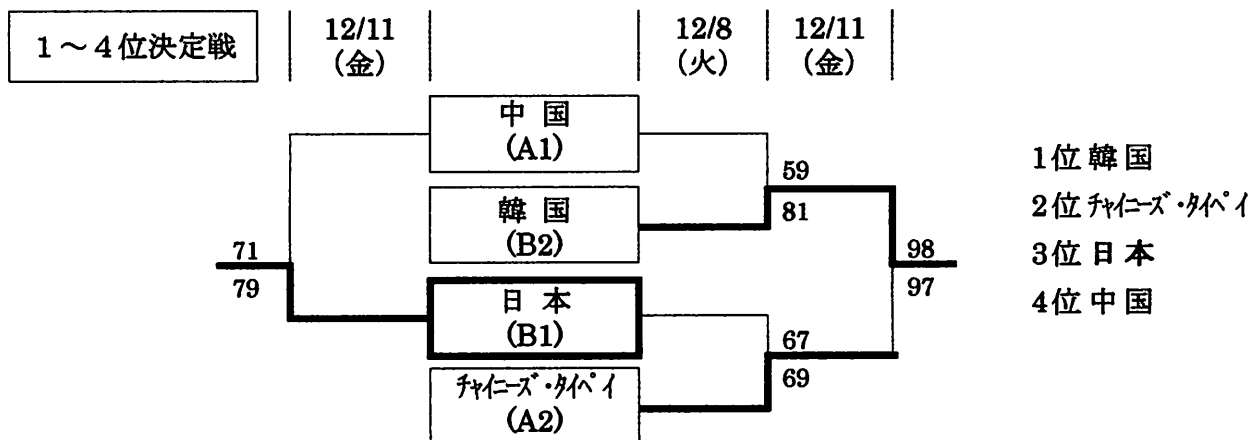
Pl:試合数 W:勝数 L:敗数 For:総得点 Ag:総失点 CP:勝点

順位	チーム TEAM	チャイニーズ・タイペイ	マカオ	モンゴル	中 国	GAMES			POINTS		
						Pl	W	L	For	Ag	CP
2	TPE		○118	○132	●48	3	2	1	298	229	5
3	MAC	●59		○92	●36	3	1	2	187	314	4
4	MGL	●94	●89		●77	3	0	3	260	335	3
1	CHN	○76	○107	○111		3	3	0	294	161	6

グループB

順位	チーム TEAM	日 本	ホンコン・チャイナ	韓 国	グアム	GAMES			POINTS		
						Pl	W	L	For	Ag	CP
1	JPN		○92	○74	○104	3	3	0	270	189	6
3	HKG	●69		●67	○94	3	1	2	230	262	4
2	KOR	●66	○108		○121	3	2	1	295	213	5
4	GUM	●54	●62	●72		3	0	3	188	319	3

Pl:試合数 W:勝数 L:敗数 For:総得点 Ag:総失点 CP:勝点



[女子日本代表メンバー]

主なスタッフ

役 職	氏 名	所 属
団 長	深津 泰彦	日本協会副会長
ヘッドコーチ	中川 文一	日本協会
アシスタントコーチ	後藤 敏博	トヨタ自動車アンテロープス
アシスタントコーチ	加藤 雅規	アイシン・エイ・ダブリュウイングス
マネージャー／通訳	佐藤 未保	日本協会

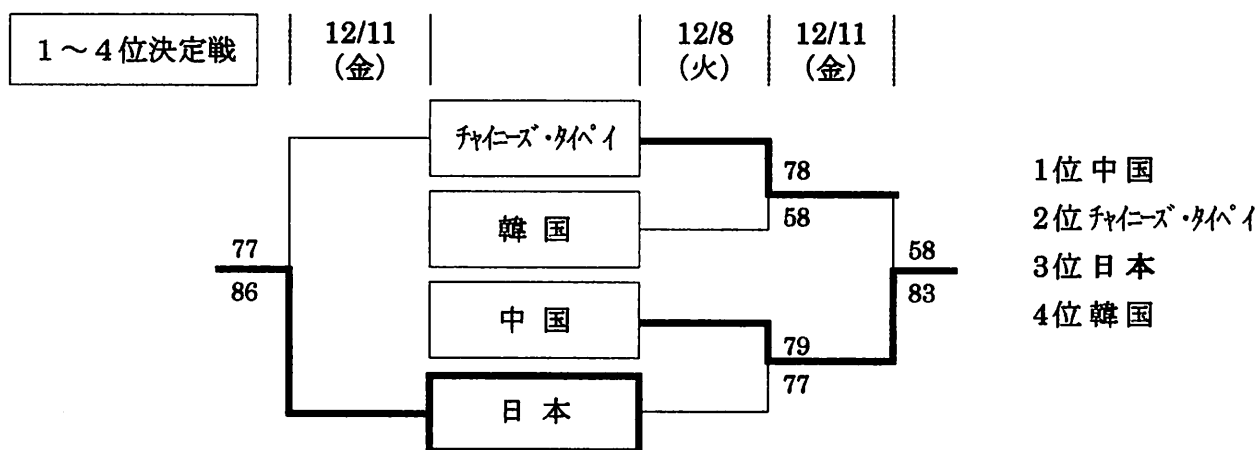
選手

No.	選手名	P	身長	体重	年齢	所 属
4	藤吉 佐緒里	S F	178	67	22	シャンソン化粧品シャンソンVマジック
5	浦島 慧子	P F	180	67	23	デンソーアイリス
6	中畑 恵理	P G	165	59	20	富士通レッドウェーブ
7	山田 菜美	S F	175	66	21	日立ハイテククーガーズ
8	間宮 佑圭	P F	183	72	19	J OMOサンフラワーズ
9	櫻田 佳恵	S G	170	63	25	トヨタ自動車アンテロープス
10	高橋 礼華	S F	177	65	21	日本航空 J A Lラビッツ
11	石川 麻衣	P F	180	71	24	富士通レッドウェーブ
12	吉田 亜沙美	P G	165	64	21	J OMOサンフラワーズ
13	諏訪 裕美	C	183	84	23	J OMOサンフラワーズ
14	高田 真希	C	183	74	20	デンソーアイリス
15	内海 亮子	S G	175	68	23	J OMOサンフラワーズ

【女子成績】

順位	チーム TEAM	中国	チャイニーズ・タイペイ	日本	韓国	ホンコン・ チャイナ	GAMES			POINTS		
							PI	W	L	For	Ag	CP
2	CHN		○69	●54	○78	○117	4	3	1	318	213	7
1	TPE	●61		○76	○91	○112	4	3	1	340	235	7
3	JPN	○59	●63		○91	○125	4	3	1	338	231	7
4	KOR	●62	●56	●60		○102	4	1	3	280	311	5
5	HKG	●31	●47	●41	●51		4	0	4	170	456	4

PI:試合数 W:勝数 L:敗数 For:総得点 Ag:総失点 CP:勝点



JOMOウインターカップ2009

第40回全国高等学校選抜優勝大会の結果

平成21年12月23日から29日まで東京体育館で開催された首記大会は相変わらずの人気の、せわしい暮れであるにもかかわらず会場には連日多数の観客が詰めかけた。そんな中、男子は昨年優勝した京都洛南高校と同様に留学生を擁しない宮城の明成高校が、決勝戦で福岡第一高校を破って初優勝に輝いた。

今回も男子で出場50校のうち10校が身長の高い留学生を擁して上位に進出したが、明成高校は日本人選手だけでこれら強豪チームに競り勝って決勝まで進んだ。

優 勝	明 成	初優勝	宮 城
準優勝	福岡第一		高校総体①
3 位	福岡大学附属大濠		福岡
4 位	北 陸		福 井
ベスト8	東海大学付属相模		神奈川
	京 北		東 京
	藤枝明誠		静岡
	延岡学園		高校総体②

女子では、U-18日本代表選手で身長191cmの渡嘉敷がいる桜花学園と、同じく代表選手の篠原を擁する東京成徳大学付属高校が最有力とされていたが、決勝戦は3年連続でその両者の対戦となった。東京成徳は悲願の優勝目指して頑張ったが、決勝戦でやや堅さが目立って第3ピリオドまでに大量リードを許し、最後に追いつけたものの及ばず桜花学園高校が3年連続17回目の優勝を飾った。

優 勝	桜花学園	3年連続 17回目	高校総体①
準優勝	東京成徳大学		高校総体②
3 位	札幌山の手		北海道
4 位	山形市立商業		山 形
ベスト8	県立足羽		福 井
	岐阜女子		岐 阜
	県立金沢総合		神奈川
	星 城		愛 知

大会ベスト5 男子

氏名	チーム名	No.	学年
畠山 俊樹	明成	6	3
高田 歳也	明成	10	3
玉井 勇気	福岡第一	8	3
二宮 弘憲	福岡大学附属大濠	4	3
リュウ 孟濤	北 陸	9	1

女子

氏名	チーム名	No.	学年
岡本 彩也花	桜花学園	6	3
渡嘉敷 来夢	桜花学園	15	3
篠原 恵	東京成徳大学	6	3
今野 真澄	札幌山の手	4	3
佐藤 綾香	山形市立商業	4	3

男子勝上がり表

	12/23・24 (水) (木)	12/25 (金)	12/26 (土)	12/27 (日)	12/28 (月)	12/29 (火)	12/30 (水)	12/31 (木)	12/27 (日)	12/28 (月)	12/29 (火)	12/30 (水)	12/31 (木)	12/23・24 (水) (木)
高校総体1 福岡第一	1		79											26 静岡県 藤枝明誠
広島県 県立広島皆実	2	79	46											27 大阪府 大阪学院大学
福島県 日本大学東北	3	75												28 山口県 県立山口
栃木県 文星芸術大学附属	4	90		83										29 大分県 県立大分舞鶴
北海道 東海大学付属第四	5	89	77											30 山梨県 日本航空
高知県 明徳義塾	6	73	106											31 兵庫県 神戸市立科学技術
山形県 県立山形南	7	88												32 千葉県 柏市立柏
奈良県 県立平城	8		65											33 福岡県 福岡大学附属大濠
宮崎県 県立小林	9	72	84											34 鳥根県 県立松江東
群馬県 桐生第一	10	88												35 三重県 県立四日市西
沖縄県 県立小禄	11	69		73										36 岩手県 盛岡市立
新潟県 県立新潟商業	12	81	55	108										37 京都府 洛南
神奈川県 東海大学付属相模	13		90											38 宮城県 明成
秋田県 県立能代工業	14													39 滋賀県 光
香川県 県立誠学園	15	82	60											40 佐賀県 県立佐賀北
岐阜県 美濃加茂	16	77												41 石川県 県立津幡
青森県 県立八戸西	17	82		92										42 長崎県 県立長崎西
和歌山県 初芝橋本	18	74	69	103										43 埼玉県 西武学園文理
東京都 京北	19		91											44 開催地 八王子
鳥取県 県立鳥取東	20		54											45 愛媛県 県立松山工業
富山県 県立高岡工業	21	73	59											46 愛知県 中部大学第一
茨城県 つくば秀英	22	82												47 鹿児島県 県立鹿児島工業
熊本県 県立玉名工業	23	52		88										48 徳島県 県立城東
岡山県 岡山学芸館	24	70	75	121										49 長野県 東海大学付属第三
福井県 北陸	25		88											50 高校総体2 延岡学園

女子勝上がり表

	12/23 (水)	12/24 (木)	12/25 (金)	12/26 (土)	12/27 (日)	12/28 (月)	12/27 (日)	12/26 (土)	12/25 (金)	12/24 (木)	12/23 (水)
高校総体1 桜花学園	1		112								26 神奈川県 県立金沢総合
京都府 京都精華女子	2	84	68						80		27 滋賀県 滋賀短期大学附属
長崎県 長崎市立長崎商業	3	75		96					63	62	28 宮崎県 県立小林
群馬県 県立高崎商業	4	50		62				91		67	29 東京都 実践学園
山口県 鹿進	5	57	68					80	75	49	30 佐賀県 佐賀清和
埼玉県 埼玉栄	6	108	87						60		31 静岡県 沼津市立沼津
高知県 県立岡豊	7	46			102	68	59	63			32 大分県 県立大分鶴崎
岡山県 就実	8		66		82				43		33 山形県 山形市立商業
和歌山県 和歌山信愛女短大附	9	65	74						67	85	34 三重県 県立津商業
開催地 八雲学園	10	91		81					42		35 栃木県 宇都宮文星女子
沖縄県 県立那覇	11	65		92					75	61	36 長野県 東海大学付属第三
福井県 県立足羽	12	84	91		82	76			29	68	37 大阪府 大阪薫英女学院
宮城県 明成	13		87		46	86			64	60	38 愛知県 星城
北海道 札幌山の手	14								80		39 鳥取県 倉吉北
富山県 龍谷富山	15	62	68						64	62	40 石川県 県立金沢西
徳島県 県立富岡東	16	75		76					68		41 山梨県 富士学園
鹿児島県 鹿児島	17	51		40					59	51	42 広島県 県立広島皆実
新潟県 東京学館新潟	18	54	61		65				70	66	43 福島県 県立福島西
千葉県 昭和学院	19		67		44						44 鳥取県 県立松江商業
岩手県 盛岡白百合学園	20		67						57	72	45 青森県 弘前学院聖愛
熊本県 県立大津	21	55	96						58		46 兵庫県 須磨学園
岐阜県 岐阜女子	22	87		72		79	76		83	63	47 茨城県 土浦日本大学
秋田県 県立湯沢北	23	65		63					69	68	48 奈良県 奈良女子
福岡県 精華女子	24	70	84						86	99	49 香川県 明英
愛媛県 聖力タリナ女子	25		76						54	85	50 高校総体2 東京成徳大学

優勝
桜花学園
3年連続17回目

準優勝
東京成徳大学

3位
札幌山の手

山形市立商業

ウィンターカップ男子で初優勝！

明成高校（宮城県）コーチ佐藤久夫氏が語る指導者像

[編集部]

2009年ウィンターカップ男子で初優勝に輝いた仙台の明成高校、出場50校のうち10校が留学生選手を擁して上位に進出している昨今、日本人だけの高校生にバスケットボールの楽しさと正しい理論を教えて全国制覇を成し遂げた。

今回は創部から5年目にしてウィンターカップで高校生チームを優勝に導いた、明成高校ヘッドコーチ佐藤久夫氏に、男子高校生の指導状況や日本の指導者の目指すべき姿などについて語っていただいた。



佐藤 久夫氏

昭和24年宮城県出身、仙台高校から日本体育大学へ進まれ、卒業後は母校の仙台高校を主として宮城県内で教鞭をとる。

平成14年日本協会がエンデバー計画を策定した際、U-16～18までの選手強化について、日本協会選任コーチとしてエンデバー計画の説明などのため全国を駆け巡る。

平成16年選任コーチ退任後、再び郷里の仙台大学で教鞭をとり、系列の明成高校外部コーチとしてバスケットを教える。

<これまでの道のり>

仙台の明成高校は以前女子高でしたが、経営者側の意向で男女共学による活性化を目指して平成8年から男子生徒が入学。完全男女共学化した平成17年度に男子バスケットボール部が創設され、同校に委嘱されて男子バスケットボール部のコーチを始めました。

最初のうちは私の指導に対して生徒の理解がなかなか進みませんでした。入学してきた1年生は中学生としては全国の第一線級レベルよりはかなり下で、どこかに欠点のある生徒が殆どでした。

特にシュート力についてはお粗末でしたし、パスについても正しいチェストパスができないくらいダランがない状態でした。また、新たに男子生徒を入学させたため上級生がいなく、普段から見本となるものがない中途半端な状態で、強化には時間もかかり一時は危機感さえ感じたものです。

生徒にバスケットボールの基本の大切さを植え付け、ディフェンスとパスの重要性を説きましたが、最近の子供たちはNBAのテレビ放映の影響からかボールを持つとすぐにドリブルを始める癖があり、これを修正することにも時間を割きました。

幸い創部2年目に1年生と2年生だけのチームでウィンターカップに出場できましたが、ベスト8で北陸高校と対戦し全く歯が立たずに敗退しました。

創部3年目には1学年から3学年まで全ての学年がそろい、3年生となって理解度を増した1期生たちのリードにより、インターハイ、国体、ウィンターカップの3大会すべてでベスト

4に入ることができました。4年目には2期生たちが東北新人戦、東北大会、東北国体とすべての東北大会を制しました。また、オールジャパン東北予選を制してオールジャパンに初出場することができました。

ここまでは順調に成長してきましたが、3年目に入ってすべての学年がそろった頃に入部してきた3期生の（現3年生）の練習姿勢がなかなか向上せず、東北大会ではすべてのものを失いました。

東北にはご存じのように古くから能代工業高校という強豪があり、加藤廣志先生の選手育成方法には学ぶところが大変多くありましたし、能代工業の何十年にもわたる歴史について、その重みをつくづく思い知らされました。

私自身も過去のウインターカップで歯が立たなかったときを振り返り、生徒に指導しきれなかった部分を反省し、指導者として再び勉強に励みました。

東京オリンピックで日本代表のヘッドコーチを務められた吉井四郎先生のオフェンス理論、日本の女子バスケットを世界レベルに引き上げた尾崎正敏さんの忍者ディフェンスなど、日本には古くからいろいろな方の立派なバスケット技術論が山ほどありますので、著書を通してこれらを暗記するほど精読し理解しました。そして能代工業の加藤先生の高校生指導のあり方などを含めて諸先輩のいいところだけを自分なりに吸収するように努めました。

それらのバスケットボール理論をやさしく説いて練習に取り入れていった結果、生徒たちが少しずつ基本の重要性について理解をし始めてくれました。

創部5年目、かの練習姿勢が向上しなかった1年生が3年生になるころ、1年間で3年にも感じるほど練習の密度が濃くなり、練習の雰囲気も意欲的になって際立って良くなりました。ときにはマイナス思考になることもありましたが、気を許すことなく練習に励みました。

私自身、日体大現役学生時代プレーヤーとしての経験があまりなく、在学中からごく自然に全国レベルのプレーヤーを育て上げたいという目標を持つようになりました。能代工業の加藤先生のベンチワークやゾーンプレスのディフェンスなど、私にとって参考になる部分を徹底して選択・分析した上で生徒たちに教えました。

振り返ってみますと、日本のバスケットボール技術はいろいろな先輩が研究し努力された歴史の上に成り立っているのだということを感じますし、これらのことはどんな選手でもやればできるやさしい理論であり、それをいかにして練習に取り込んでいくのかが指導者の役目ではないかと思うのです。

バスケットボールは相手を自分たちの土俵（＝ペース）へ引きずり込むような試合をすれば、やがて勝利に結びつくと確信していましたので、相手に身長の高い留学生がいたとしてもあまり気にはしていませんでした。今回は諸先輩が築きあげてくれたノウハウのいいところ取りをして大会に臨みましたが、まさにバスケットボールは生き物で一試合戦うごとに選手たちが予想以上にめざましく進化し好結果となりました。

このようにバスケットボールの進化はやがて発展につながるのではないかと考えていますし、進化がなければ発展もないと実感しました。

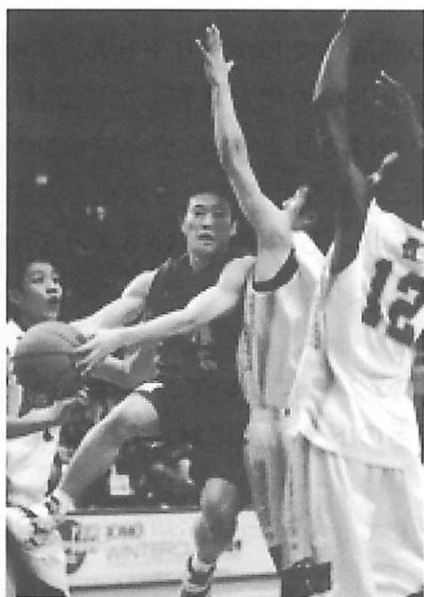
＜出席者からの質問＞

今回のウインターカップを観戦して明成高校の試合でいろいろな場面で感動しました。

総論的には、前半と後半、特に第4ピリオドあたりでは戦い方が異なっているいろいろなアクセントがあり大変見応えがありました。

各論的には、準決勝の福岡大濠戦の試合におけるセンターライン付近のルーズボールや、決勝の福岡第一戦で24秒ルールを時間ぎりぎりまで活用したパスワークなど素晴らしい場面が多々ありましたがこれも先生の作戦指示だったのでしょうか？

試合展開では40分間相手と同じペースで戦ったら体力がない方が負けてしまいます。40分のうち相手が切れそうになった後半が勝負どころなので、それまではじっと相手についてい



写真提供 asahi.com

くことを指示しました。準決勝、決勝とも同じ作戦で臨みましたが相手が走っても自分たちがつぶれないようにについていって残り5分で勝負をかけ、いずれも成功しました。自分たちの土俵に相手を引きずりこめたことが良かったと思います。この残り5分間の力は単なるムードだけでは成功しません。練習における厳しさと相手に競り勝つという追求心、苦しさを味わってこそ最後の勝負に成功するのだと思います。

パスについては、ゾーンディフェンスに対する有効手段は速いパスによる攻撃しかないという先人の大原則を私なりに生徒たちに教えた結果、生徒たちがパスによる攻撃方法に興味を持って練習し、それがゲーム中に表れたものと思います。ゾーンディフェンスに対して長い時間パスをしていると、やがて相手がじれてディフェン

スの動きが止まりますので、その時こそがオフェンスチャンスと理解しています。

ルーズボールに関して言えば、選手個々にとってこれほど平等なプレーはないと考えています。上背の高低に関係ないし、うまい下手に関係なく、誰でも努力次第でどうにでもなるプレーです。であるがゆえにルーズボールのときは全員が参加し、全員で勝ち取らなければ試合の勝ちにつながりません。ディフェンスについても同様に努力、練習次第でどうにでもなる部分だと思っています。

今回出場50校中10校が留学生を擁し、上位に進出していますが佐藤先生は留学生に対してどう考えますか？

留学生に対しては自分なりに感情的にならないようにしています。日本に来てバスケットボールを学んでいるわけで、国内の高校生選手と同じような存在だと思います。しかしながら身体の作りは日本人と異なり、身体的にははるかに恵まれていますので対応するには大変ですが、努力次第で克服できるのではないのでしょうか。

高校生の段階では試合の戦術や戦略だけでなく、選手個々の力を高める必要があるのではないかと思います。昔は指導者の個性がそのまま試合に出て面白い場面もありましたが、最近で

は選手個々の能力に頼るバスケットになっているように思えます。

NBAのTV放映が世界中に流れて、バスケットボールの指導者がいない国でもNBAのTVが指導者の役割を果たしている国もある位です。日本においてはNBAのカッコよさだけが先行して、選手にも悪い個性が目立つようになっていますがあまり感心しませんね。

日本バスケットボール界の諸先輩にはバスケットボールに対する哲学のようなものがあつたと感じていますが、先生の哲学はどのようなものなのでしょうか。

アメリカのバスケットに関するジョバスという書籍によれば、バスケットボールコートはまさに人生の進むべき場所であると。楽天の前監督野村さんは「無形の力」という言葉を使いました。

明成高校においてもバスケットボールは教育の中での一つの部活動でしかありません。高校生として勉強などやるべきことをきちんとやってからのバスケットなのだと教育しています。バスケットで言えばオフェンスはそれぞれの能力により多少の差はありますが、ディフェンスについてはレギュラーでなくても努力次第で誰でも同じようにできるようになるのだから努力を惜しんではいけないと教えています。生徒たちもその辺を哲学として持っているようですので、それらを尊重し伸ばしていくことが大事なのではないでしょうか。

ディフェンスについての話がでましたので明成高校のディフェンスについて言わせていただくと、本当に隙のない守りをしていると感じました。特に相手のドリブルに対してのサポートは見事だったですね。

日本で男子世界選手権大会が開催される前、ヘッドコーチとしてジェリコ氏が招請され私も彼と3ヶ月ほど一緒に仕事をさせていただきましたが、彼はディフェンスについて頑固なほどその重要性を言い続けていました。特にゴール近くの制限区域とエンドライン近くのディフェンスは絶対に隙間を作るなど。その時私は、バスケットボールの大事なところは世界中同じなんだと感じました。



国際的にみて日本人の優れているところはというと、頭脳的な展開が素早くできる点が上げられます。経済面などはその最たるもので国際舞台でも活躍しております。バスケットボールへの取り組みも同様で、ゲーム中たえず頭で考えながらプレーすることが大事なんだろうと思います。後は指導者がディフェンスとパスの重要性をいかにしてプレーヤーに教え込むかでしょう。

明成高校チームのゲームを見てみると、平素からチームバスケットに力点を置いて指導されているようにも思うのですがいかがですか。

たかがバスケットボール、されどバスケットボールという言葉がありますが、試合に出てい

る選手だけが戦っているのではないということです。ユニフォームを着られない上級生もいて、彼らが一生懸命下支えをしてくれるからチームが成り立ち、皆が楽しくバスケットをできるのだと。そんな人間教育は結構くどくどと話したりします。生徒たちは最初誰でも見る側から入るので簡単に考えていますが、やがて自分たちがやる側に回ると厳しさが一転します。試合中一つのミスが負けにつながることを絶えず意識させ、プレーに集中させることによって厳しさを乗り越えてこそ、次にそれが楽しさに変わり活性化します。常にそうしたことの積み重ねをしていかなければトーナメント戦を勝ち上がることはできませんし、自分たちが勝ち上がるのが楽しさにつながるのだと説いてきました。

幸い今回は優勝することを経験できましたので、今後いい意味での影響となって残ってくれるとは思いますが、ウインターカップでの優勝はあくまで国内だけのこと。男子U-18のアジア選手権では6位と低迷していますので、まだまだ彼らを鍛えなければ国際的には通用しないと思っています。

言いにくいことをお聞きしますが選手のリクルートはどうしておられるのですか。

私は公立高校の教員上がりなのでリクルートは殆ど消極的で苦手です。やはり声をかけなくても来てくれることが大事で、私を理解してくれている中学の先生がリクルートをやってくれることが多いです。確かにいい選手を欲しいとは思いますが、出来あがった選手よりは鍛えれば何とかなるような素材の方が私には合っているようです。

確かにいい指導者のところにはいい素材が集まってきます。であるがゆえに指導者もしっかりと勉強しなければいけないと思います。素材を育てて相手に勝つということは、そう単純には成功しないと思うのですが。

私もこの年になって、全国大会等でたくさんの方からいろいろな技術論などの話を聞けるようになりました。では若い指導者にそれができるかというと難しいと思います。先輩方のいい所や良い技術論が聞ける雰囲気が出ていませので若い指導者が育ちにくくなっています。

できれば日本協会が率先して、若い指導者が理解できるような技術論をまとめて発信していただけないでしょうか。昔は書物でしたが最近ではインターネットという便利な手法がありますので、ネットを通じて技術論のやり取りができるようなシステムを作ればかなり役に立つと思います。

話題が変わりますが、日本代表チームについてどう思われますか。

選手の素材を見てみると日本国内では確かにトップグループにいる人達ばかりですが、アジアという地域へ一歩出てみるとごく普通の選手レベルでしかありません。したがってもっと真剣に厳しく鍛えなければアジアを制することはできないと思います。若い選手をもっと時間をかけて訓練し、戦える人材を育てあげるべきです。

女子は世界においてメダルを狙える位置にいますが、男子はアジアでさえメダルに程遠い状況です。最近では情報網が発達していますので日本が新しいプレーを開発したとしても、すぐにばれてコピーされてしまう状況です。一時、速いバスケットを日本の持ち味としたときがあり

ましたが、24秒ルールなどによりどこの国のプレーもより速くなっています。日本代表チームがこれから進化していくにはパスによるゲームコントロールが必要だと思います。

たとえばミスプレーは必ずと言ってよいほどパスとキャッチのところから発生しますので、パスコントロールやパスコンビネーションについていえばまだまだ進化の余地が残っていると思われますし、その辺を解決すれば日本のバスケットももう少し戦えるのではないのでしょうか。

また、ここ10年間くらい日本代表のヘッドコーチは、女子では中川さんが長い間面倒をみてくれています。男子については相当変わっています。もう少し長い目で見て、せめてオリンピックアジア予選を2回くらい経験させる方がいいと思います。そして日本中が総力を挙げて戦うような意識にならないといけませんし、選手も基本にかえって技術の積み上げを図る覚悟が必要でしょう。

佐藤先生は学生時代二軍におられて苦勞されたから現在のように研究熱心で勉強される指導者になれたのではないのでしょうか。先人の説を真摯に受け止めて、直接聞いたり書物で勉強したりとご自分も努力されているところが素晴らしいと思います。中学や高校を指導する場合、バスケットの基本となるパスを重要視して指導されている点も大いに敬意を表します。

スペシャリストではない生徒たちを指導してチームとして纏め上げ、トーナメント戦を勝ち抜いたことは大変素晴らしいことですし、正に佐藤先生の指導の成果だと思います。これからも頑張って良いプレーヤーの育成と、バスケットボール発展のためご尽力をお願いいたします。本日は有難うございました。

.....

<取材後記>

明成高校は、仙台市青葉区にある私立高校（朴沢学園）で生徒数は男女で1500名ほど、バスケットボール部員は男女共40名足らずという。高校男子で創部5年目にしてウインターカップを制したことは過去に例がない。

ウインターカップで明成高校の試合を見た多くの人が「久しぶりに高校生らしいバスケットを見た」と言い、その快挙に惜しみない拍手を送っていた。

佐藤先生の指導がなければ、こんなに早く全国制覇はできなかつただろうし、厳しい指導にしっかりと対応し、努力して自分たちのバスケットボールを築き上げた明成高校バスケットボール部に対して心から敬意を表したい。

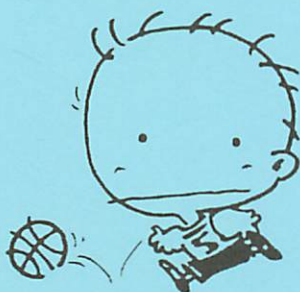
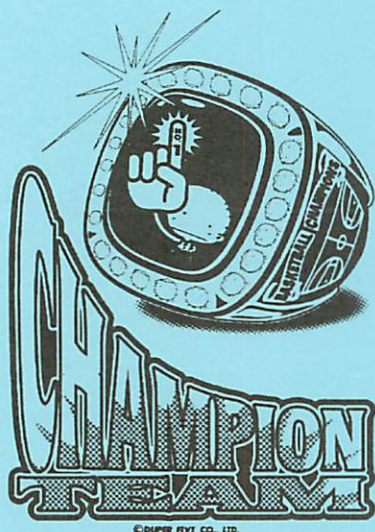
上背がある留学生を擁しなくても、バスケットボールに対する取り組み方次第で身体的ハンデが乗り越えられることを、前年優勝した京都洛南高校に続いて今回は明成高校が教えてくれた。これらが国際的に見て身体的ハンデを背負っている日本代表チームの糧になれば幸いである。

どんな道も、
自分の道に変えられる。



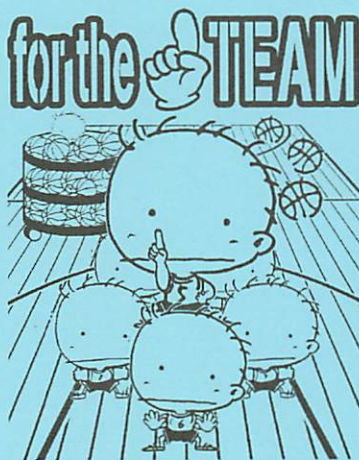
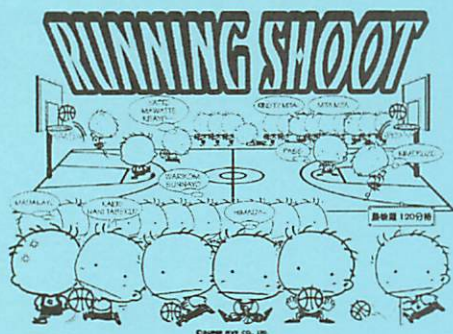
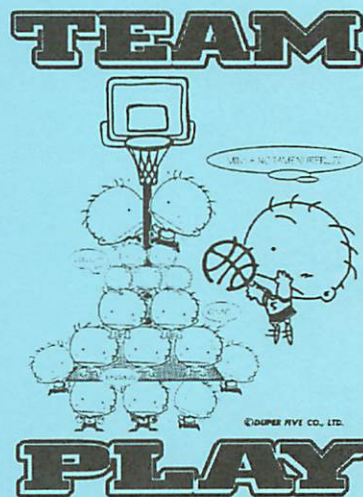
sound mind
sound body

 **asics**



DUPER.

表現の自由人。



DUPER®

URL : <http://www.duper.co.jp>

デューパーファイブ株式会社
〒130-0023 東京都墨田区立川3-3-5
TEL . (03)3632-7045 (代表)
FAX . (03)3632-8327

E-mail: info@duper.co.jp